

松橋町の歴史は古い□  
まず、地形から見よう。本町は熊本市と八代市のほぼ中央にあり、東部は丘陵と小山が連なり、一方、西の半分は干拓で造られた平地で、両地が接する一帯は、原始時代の居住跡として古くから知られる。それを裏付けるように古墳や洞くつが残っていて、宇賀岳の「鬼の岩屋」や、前方後円墳を物語る大塚古墳、さらに宮島貝塚などだ。資料は肥後考古学会に保存されている。

徳川時代の初めころは、大野、久貝の両端は不知火海に面して浜をなし、港を形成していたと伝えられていることから、古くから海上交通の要地だったことがうかがわれる。やがて自然発生的に町が形づくられ、地方政治の中心地となり、今日の松橋町へと発展してゆく。

明治二十一年町村制定をみたころは、松橋町、当屋村、豊福村、豊川村があった。

人口 18,362人  
面積 38.53km<sup>2</sup>  
財政 1,556,960千円  
施策指標  
① 地域中枢都市………の建設  
② 住宅都市………の建設  
③ 田園都市………の建設

豊かな郷土開発のための施策が三指標に即して夫々均衡を保つよう留意しながら進む。

町の成り立ち

これら四町村は隣接して往昔から相互関係が緊密に結びつき、また習慣もまったく同じで、ことに住民最大の関心事だった各種の祭事が相通じていたことから昭和二十九年十二月一日四町村の合併が実現、新たに松橋町としてスタートした。

交通、行政の中心地□  
国鉄鹿児島本線は町を南北に縦断し、国道三号線は、ほぼ中央を貫き国道二一八号線は本町を起点に東に延び砥用町を経て延岡市に通じている。主要地方道はここを中心に西に向う松橋三角線、鏡町を経て八代に至る鏡八代線と城南町を通り熊本に通ずる城南熊本線とがあり、い

豊かな香り高い  
住みよい郷土へ

づれも本町が分岐点となって交通のなめをなしている。それに伴い人口も増加している。

「人口の増減は地域発展のバロメータである」と言われており、五十年の国勢調査では、千六人増で県下八十七ある町村で七番目に達した。ほとんどの町村が過疎化の一途をたどるなかで、宇城町村での人口増は本町のみである。「水は低きに流れる人は文化の高いところに流れる」の言葉通りで、加速度のついたわが町の活力を示している。

又、国や県の出先機関も集中してい

- 長期の展望に立つて当面取り組むべき事業、解決すべき問題の主なもの、
- ① 緑川用水、氷川用水の実現
  - ② 湛水防除事業の完成
  - ③ 当尾、豊福畑台地帯の土地改良
  - ④ 第二次農業構造改善事業
  - ⑤ 海岸老朽樋門の改修
  - ⑥ 五丁川、大野川の改修
  - ⑦ 八代松橋広域農道の完成
  - ⑧ 松橋中学校の新築
  - ⑨ 松橋小学校の移転新築
  - ⑩ 町民グラウンドの完成
  - ⑪ 松橋バイパスの完成

「私たちは歴史と自然に恵まれた松橋町民であることに誇りを持ち、平和と希望にみちた町を築くために、この憲章を定めます。

一、身体を鍛え、健康な町をつくりましょう。

一、創造を進め、豊かな町をつくりましょう。

一、知性をみがき、香り高い町をつくりましょう。

一、道義を重んじ、住みよい町をつくりましょう。

一、自然を愛し、美しい町をつくりましょう。」

将来の発展、住民の福祉の向上を図りながら住みよい町づくりをめざして躍進を続ける松橋町である。(松橋町)



▲住民参加のふるさと祭り



▲松橋町上水道



▲松橋町外二カ町清掃施設組合清掃センター



▲宇賀岳の慰霊之塔



▲松橋町立郷土資料館の一部